

リレーのスタート時刻繰り下げに関する報告とお詫び

競技責任者 人井和之

リレー競技において、男子選手権クラスの1走集合時刻になってから、スタート時刻の10分繰り下げを決定し発表するという事になってしまいました。これは、会場に運ぶ資材（地図）のチェック漏れというきわめて初歩的な実行委員会のミスが原因でした。この場をもちまして、みなさまにお詫びいたします。

<状況>

午前8時30分頃、スタート役員から競技責任者に、「選手権の1走の地図が見つからない。現在捜索中」の一報が入る。スタートからの報告では、地図は会場までもってきた、ということだったので、未出走の選手の目に触れることをおそれて、会場での捜索に集中していた。当時、競技責任者と大会コントローラーは裁定委員に対してあるチームの走順変更について説明中であり、リレー担当はデモンストレーション（競技説明）の最中であった。この時点で、すぐに役員宿舎秋吉台 YH へ予備地図を取りに行く指示をしていたら、スタートを遅らせずに済んだであろう。37分頃にリレー担当（地図管理者）に連絡、42分頃リレー担当とスタート役員が役員宿舎に予備の地図を取りに向かった。50分の時点で、宿舎から会場に向かって移動中のリレー担当と電話連絡を行った。地図が届くことが確認されたので、競技者への影響を最小限にするべく10分の繰り下げを決定し、発表した。到着した地図に、スタートとゴール役員によってコースパターンの確認とゼッケン番号の記入を行い、念入りに確認した上で競技に使用した。本来準備してあった地図は、役員宿舎内でその後発見された。

<反省>

そもそもの原因である、スタート資材の確認漏れという点においては、弁解の余地もなく、ただただお詫びするしかない。今後のインカレ実行委員会が、このようなミスを繰り返さないように、チェックシートの作成のような基本的な作業をおろそかにしないようにおすすめる。

突発的な事情でスタート時刻を繰り下げる必要が出た場合、いつ発表するべきかという点は問題となるであろう。今回はスタート予定時刻の10分前に発表したが、すでに1走スタート地区周辺には選手や観客が集まっており、放送が聞こえなかったという声も聞かれた。スタート地区でメガホンを使って連絡するなど、周知徹底の方法に考慮の余地があったが、スタート役員は事態の対応にかかりきりになっており、対応できる役員がいなかった。今回は何とか10分の繰り下げで対処できたが、繰り下げ時間が長くなる場合は特に、1走の選手への心理的影響が大きくなるであろう。そのため、どうしても繰り下げなければならない場合は早めに発表することが必要だと思われる。一方、一度発表した変更は混乱を

防ぐため再変更はできない。できるだけ繰り下げ時間を短縮したいということで、ぎりぎりの発表となった。最善を尽くした結果だということで理解してもらいたい。

今回の件については実行委員会に全責任があるのだが、朝のスケジュールのきつさが繰り下げの一つの要因になっている。帰りの交通のことも考慮して15時に競技終了とするため9時にスタート開始の予定を立てていたが、日の出の遅い山口県では実行委員会の朝の準備の開始時刻も遅くなり、準備のスケジュールがきつくなっていた。また、学連から派遣されている裁定委員やスターターの会長が、所定の時刻に所定の場所に到着していなかったということも指摘させていただきたい。

スタート時刻の繰り下げによって、競技のスケジュールがすべて10分繰り下がることになりました。特に午後には天候が悪化したこともあり、参加者のみなさまには大変ご迷惑をおかけしました。実行委員一同、あらためて深くお詫びいたします。